

<p>学校教育目標</p> <p>心豊かにたくましく 自主的に活動し 自らの生き方を創造する 児童生徒の育成</p>	<p>経営目標</p> <p>(1) 授業改善のために主体的に研究・研鑽し、確かな学力の向上に努める。 (2) 温かで優しい心を育成し、互いの良さを認め合える人間関係づくりに努める。 (3) 基本的な生活習慣を身につけ、健やかな体の育成に努める。 (4) 小中併設校の特色を生かした連携の取組を深め、学校・家庭・地域との連携に努める。 (5) 組織的・機能的な学校運営に努める。</p>
---	--

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	判定結果 (最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	家庭学習の習慣化、及び実施時間の伸長と内容の充実を図る。	家庭学習で各教科からの課題や毎日の課題、自主的な学習に取組ませる。また、学習時間や取組んだ内容を記録し生徒が学習の積み重ねを確認できるようにする。	学習指導部 教務主任	課題の提出はほとんどの生徒ができていますが、課題以外での自主的な学習が少ないため、総じて学習時間が少ない傾向にある。SNSやネット、ゲームに多くの時間を割く生徒がいる。	【成果指標】 授業と連携させた家庭学習で意欲で学習意欲が高めることができた。	家庭学習で定期テストで成果が出た、または授業がよくわかるようになったという生徒が A=80%以上 B=70%以上 C=60%以上 D=60%未満	生徒アンケート (1・2学期末)	A	B	1学期と比べ2学期は行事等が続くこともあり、家庭学習への意識が低下する学期である。そのため、2学期に重点的に家庭学習への取り組みを強化する期間を設定するなどして、個々の意識の向上につなげたい。
	個別最適な学びや協働的な学びを授業に取り入れ、実践する。	授業で個々のスピードに合わせて学習できる場や助け合いのできる場を設定する。教職員の調査をもとに授業改善に努める。	学習指導部 研究主任	どの教科においても個別最適な学びや協働的な学びができる授業づくりを行っている。	【成果指標】 個別最適な学びや協働的な学びを通して、主体的に学習できた。	授業の中で考えを持ち学習を進め、友達との話し合いで考えが広まったと感じている生徒が A=90%以上 B=80%以上 C=70%以上 D=70%未満	生徒アンケート (1・2学期末)	B	A	個別最適な学びや協働的な学びを授業を継続し、生徒たちが主体的に授業に参加できるように、授業改善を行っていく。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	いじめなど嫌なことがなく、安心して学校生活を送れる環境を整える。	教員の巡視や面談を行い、未然防止・早期発見に努める。また、生徒指導の4つの視点を生かした授業づくりを行う。	生徒指導主事	生徒間のトラブルや生徒指導上の問題が比較的少ない状況で落ち着いているように見えるが、安心して過ごせると答えた生徒は80%台にとどまっている。	【成果指標】 学校は安心して過ごせる場所だと生徒が感じるようになった。	学校は安心して過ごせる場所だと答えた生徒が A=100% B=90%以上 C=80%以上 D=80%未満	生徒アンケート (1・2学期末)	D	D	安全・安心な風土の醸成に向けて、取り組みを継続していく。学校が安心できる場所になるためにはどうしたらよいか、教員だけでなく、生徒たちの考えも聞きながら進めていく。
③キャリア教育・進路指導	系統的な学習により、自分の適性、可能性を知り、主体的に進路を決定する力を養う。	進路調査や進路適性テストなどの結果や過程を通して、保護者とともに将来について考える機会をつくる。総合的な学習の時間や特別活動の時間でキャリアや進路について考えられる学習を計画していく。	進路指導	指標は向上しているが、保護者と生徒の評価に差が見られる。	【成果指標】 キャリアパスポートを活用しながら系統的な指導で、自分の将来の生き方について考えることができた。	自分の将来について考えることができた A=生徒・教員が90%以上、保護者が80%以上 B= " 80%以上、 " 70%以上 C= " 80%以上、 " 60%以上 D=C基準未満	生徒アンケート 教職員アンケート 保護者アンケート (1・2学期末)	D	C	キャリアパスポートに綴る内容を年度当初に決定し、教員一人一人が、キャリア教育を意識した教育実践をしやすいとする。保護者に対しては、引き続き進路だよりを発行し、情報提供していく。
④保健管理	自分の健康状態に関心を持ち、規則正しい生活を実践できる力を育てる。	1学期、2学期、各1週間ずつ元氣アップ週間を設定し、生活習慣の改善に向けて取り組む。	保健指導	前年度の取り組み結果から寝る直前までスマホやタブレットを使用している生徒が約半数いる。そこで今年度も、メディア使用の目標時間を決めさせ、元氣アップ週間で、取り組ませる。	【成果指標】 自分の目標を立て、それを意識して取り組むことができた。	自分の生活習慣の目標を意識できた生徒が A=80%以上 B=70%以上 C=60%以上 D=60%未満	生徒アンケート (1・2学期末)	B	C	2学期も元氣アップ週間を設けて生徒自身が生活習慣の目標を決めて取り組んだ。1学期よりも就寝時間、メディアの使用時間に課題がある生徒が増加した。今後も元氣アップ週間に取り組み、保護者と連携し課題解決に向けて取り組んでいく。
⑤安全管理	危機管理体制の整備に向けた取り組みを充実させ、安心・安全な学校づくりを推進する	各種危機マニュアルに基づく訓練や研修を行い、職員の危機対応能力の向上を図る。	安全担当 教頭	避難訓練や防犯訓練を着実に実施するとともに、様々な状況において臨機応変に対応するための職員研修の充実が必要である。	【成果指標】自己評価 危機を想定した研修を行い、危機対応力が身についた。	自分自身の危機対応力が身についたと感じる教職員が 学校は、事故などがなく安全に配慮していると思う保護者が A=90%以上 B=80%以上 C=70%以上 D=70%未満	教職員アンケート 保護者アンケート (1・2学期末)	B	B	緊急時に教職員一人一人が主体的に対応できる危機対応訓練をマンネリ化させず計画していく。また、生徒とも訓練の意義を共有するとともに、実施状況についても積極的に保護者に発信する。
⑥特別支援教育	特別な支援が必要な生徒について理解を深め、SCやSSW等と連携を図りながら、個に応じた支援を行っていく。	職員会議で生徒の情報交換を行う。また、必要に応じて迅速な対応を協議し、組織的に対応にあたる。	生徒指導部 特別支援教育 コーディネーター	情報交換や共通認識の場が持たれている。個に応じた支援方法を協議し、組織的に対応していく必要がある。	【成果指標】 情報交換や専門相談等を通して、個に応じた支援に生かすことができた。	個に応じた支援に生かすことができた A=90%以上 B=80%以上 C=70%以上 D=70%未満	教職員アンケート (1・2学期末)	A	A	2学期には校内特別支援の会を設けることができたが、定期的に行われる必要がある。年度当初に特別支援委員会の日程を決定し、定期的開催の中で、個別の支援計画も教職員間で共有していく。
⑦組織運営・業務改善	職員の働き方改革を図り、時間外勤務時間の更なる削減を目指す。	時間外勤務時間削減に向けて、業務改善の工夫及び業務の平準化を図るとともに、外部人材の活用、他校との連携を進め、業務の効率性向上を検討する。	教頭	教員数が少ないため個々の職員が抱える業務が多く、依然としてヶ月の時間外勤務時間が80時間を超える職員が見られる。	【努力目標】 時間外勤務時間が80時間を超える職員ゼロとなった。	時間外勤務時間の学校平均を超える教員の時間外勤務時間を昨年度の80%以下とできた月(8月を除く)の割合が A=90% B=80%以上 C=70%以上 D=70%未満	勤務時間調査 (毎月)	D	D	一人一人の教職員の状況に配慮しながら、校務分掌の担当を見直していく中で、継続して業務の平準化に努める。義務教育学校化に向けて業務が増加することが予想される中、新たな業務にも見通しを持って教職員が対応できるよう配慮するとともに、市教育委員会にも最大限の支援を依頼する。
⑧研修	ICTの効果的、効率的な活用で授業改善を進める。	効果的な研修を設定することにより、自分の授業を見直し、授業力向上を目指す。OJT等のサポート計画をもとに計画的に開催する。	研究主任 GIGAスクール 推進リーダー 若プロ担当	ICTを授業で活用しているものの、活用が効果的であると教員も生徒も感じていない。	【満足度指標】 研修を通して身につけた技能を授業で有効に活用できた。	OJT・研修で身につけた内容を個別最適な学び・協働的な学びに有効に生かすことができた教員が、 A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	教職員アンケート (1・2学期末)	A	A	校内研修会の中での情報交換の場も増やし、学期に1度程度、定期的に行っていくことが必要である。
⑨保護者、地域との連携	積極的な学校公開や学校だより、学級だより、およびホームページ等を充実させることで、保護者・地域に開かれた学校を目指す。	学校だより・学級だよりを定期的に発行する一方で、行事などの際のタイムリーな発行もめざす。ホームページをリニューアルした上で、更新を定期的に行い、最新の情報を伝えるようにする。	HP担当 教頭 校長 各担任	学校の様子がよくわかる、どの学年においてもおおむね評価されているが、A評価「よくわかる」の割合がまだ高くない。	【満足度指標】 保護者や地域に学校の様子が伝えることができた。	学校の様子がよくわかると答えた保護者が A=肯定的な評価が90%以上、 「よくわかる」という評価が30%以上 B=90%以上 C=80%以上 D=80%未満	保護者アンケート (1・2学期末)	C	C	ホームページや学校通信を利用し、継続して今後の予定や行事での生徒の様子を発信していくとともに、学年便りを含めたその他の発行物でも、生徒の様子が迅速に伝わるように発行時期や内容を工夫していく。
⑩教育環境整備	授業づくり及び業務改善のための教材教具、ICT環境を充実させる。	個別最適な学びや協働的な学を軸とした授業づくり及び業務改善のために、ICT環境の更なる整備、先進校視察等の機会を充実させる。	GIGAスクール 推進リーダー 教頭	授業及び業務改善を進めるため教材教具、ICT環境を整えてきたが、成果を上げるためには十分とは言えない。	【満足度指標】 授業及び業務改善に必要な教材教具、ICT環境等が整備された。	授業の工夫や業務改善がしやすいように教材教具及びICT環境等の整備が行われていると感じている教職員が A=80%以上 B=70%以上 C=60%以上 D=60%未満	教職員アンケート (1・2学期末)	A	A	GIGAスクール構想の充実の中で進めてきた環境整備を今後も継続し、義務教育学校化に向けた教育課程の工夫と連携させ、迅速な環境整備の実現に努める。

学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との話し合いで考えや理解が深まっていると実感している生徒が増えていることから、教育効果が出ていると考えられる。 ・子供の家庭での対話の少なさ、家庭での生活習慣の影響が、家庭学習の少なさなどに現れていると考えられる。 ・義務教育学校化による9年間の学びに向けて、一人一人の学習実態を把握し、学び直せる環境をつくってほしい。 ・避難訓練では、津波を想定した訓練も行ってほしい。 ・不審者が侵入した場合の対処について、保護者・地域とも共有してほしい。 ・特別支援教育や研修では効果が現れていることから、今後も継続してほしい。 ・学校行事への地域の参加を拡大してほしい。 ・教職員の人数確保、支援体制及び対外的な研修の見直しを教育委員会へ要求すると同時に、校内でもこれまでの行事、活動の見直しを進めてほしい。
---------	--